部署紹介

# 周産期医療センター

看護師長　髙畠麻由美

## 周産期医療センターとしての未来を見据えた体制づくり

### 周産期医療を取り巻く現状と助産師の役割

近年、高齢出産や合併症を持つ妊婦の増加により、ハイリスク妊婦が増えています。また、少子化の影響で産科病棟は他科との混合病棟となるケースも多く、助産師を取り巻く環境は大きく変化しています。さらに、産科医師の不足も深刻な問題となっており、助産師の専門性を活かした院内助産の運営など、助産師に対する新たな役割への期待が高まっています。

このような社会的背景に対応するため、私たちは女性のライフサイクルに寄り添ったケアを提供し、助産師としての専門性を発揮できる体制づくりに取り組んでいます。

### 専門性を活かしながら機能的な統合を目指して

当院の周産期医療センターは、NICU／GCU（新生児集中治療室）と6階山側病棟（産婦人科病棟）で構成されています。両部署は垣根を超え、人材や機能の統合を進めることで、それぞれの強みを活かして相乗効果を生み出す「機能的統合」を目指しています。NICU／GCUに入院する赤ちゃんと、産後のお母さんに関する情報を密に共有し、切れ目のない周産期医療を提供できるよう努めています。

また、全ての助産師が多様な役割を果たせるよう、教育体制の強化を推進しています。NICU看護師においても、より高い専門性と広い視点を持つ看護師の育成を目指しています。

このように個々のスタッフのニーズと組織のニーズを調和させながら、一人ひとりの成長と組織全体の発展を連動させる仕組みづくりを進めています。

### ① ハイリスク妊産婦への緊急応援体制

当センターでは、合併症をもつ妊婦の受け入れも多く、産婦人科・小児科の医師に加え、救命診療科の医師や看護スタッフと連携し、緊急時の体制整備と訓練に力を入れています。母子の命に関わる状況でも最善の医療と看護が提供できるよう、シミュレーション訓練を繰り返し行い、それぞれの専門性を活かした連携を実践しています。

また、分娩時に赤ちゃんが厳しい状態で誕生する場合にも備え、新生児蘇生法（NCPR）の資格を持ったスタッフがすべての出産に立ち会う体制を整えています。

### ② 母子とのコミュニティを通した育児支援

若い世代を取り巻く環境として、核家族化やコミュニティ参加の希薄化が進む中、当センターでは、「安全なお産」と「より良い育児」の実現を目指し、母子の心と体の健康増進につながるプログラムに取り組んでいます。マタニティエクササイズ・マタニティヨガ教室では、資格を持つ助産師や理学療法士が講師を務め、妊婦さんの心身の健康づくりをサポートしています。また、ベビーマッサージ教室は、参加されたお母さんたちがマッサージをしながら育児の悩みを共有し、笑顔が増える楽しい時間を過ごされています。両親学級では、妊娠中から出産・育児についてお話しし、不安を和らげるように努めています。赤ちゃんの人形を使った沐浴練習など、実践的な内容も取り入れ、出産後の育児に自信が持てるよう支援しています。このようなプログラムを通じて、参加者同士が現在の心境を語りあいながら繋がりを持ち、地域におけるコミュニティ形成や育児への安心感につながる取り組みを行っています。

**産婦人科外来または当院Instagram（@rinku_sanka）でもご紹介していますので、どうぞご覧ください。**

**私たちは今後も、女性のライフサイクルに寄り添いながら、地域に根ざした周産期医療センターを目指し、更なる発展をはかってまいります。**

ベビーマッサージの様子

新米パパとママの沐浴の練習の様子

初めての抱っこや沐浴に戸惑いながらも楽しく体験して頂けました。